

2025年度 事業報告書

学校法人夙川学院

1. 法人の概要

(1) 基本情報

① 法人の名称

学校法人夙川学院

② 主たる事務所の住所、電話番号等

主たる事務所の住所: 兵庫県神戸市長田区西山町2丁目3番3号

電話番: 078-611-3350

FAX 番号: 078-611-3356

ホームページアドレス: <http://www.shukugawagakuin.net/>

(2) 建学の精神

夙川学院は、1880 年、御影弓場の地に増谷かめによって創設された裁縫塾を母体としています。当時は女子の教育についての関心が低かったのですが、かめは、女子教育の必要性を痛感し、『婦徳の高い、堅実な家庭婦人の養成』を目指し、裁縫塾を創設しました。以後、本学院は校名を変遷しつつも確実に発展を遂げてきました。なかでも本校教育の一大転換期となったのは、終戦後、御影魚崎の地から、西宮夙川の地に移転した時です。校名を増谷高等女学校から夙川学院中学・高等学校と改称し、学校教育の基礎となる教育精神をキリスト教に求め、キリスト教精神を柱として新たなスタートを切りました。

その建学の精神の主たるところである「徳のある人間を育成する」という精神は現在の組織に脈々と受け継がれています。

教育の目指すところは、共通して「知」「徳」「体」すべてにバランスのとれた全人教育です。またグローバル化した現代社会では、国際感覚を持った人間の育成も重要であることを鑑みて、それぞれの組織がそれぞれの特徴を最大限生かしながら上記の目標達成に邁進してきました。

本学院は教育の目的をより明確にするために、2015 年度に寄附行為の第3条を「イエス・キリストの教えを教育の根本とし、正義と平和を愛する徳の高い人を育てることを目的とする」と変更し、院長および理事現員総数の3分の1以上をキリスト者とするクリスチャン条項を新たに定めました。また、一般社団法人キリスト教学校教育同盟に加盟しました。

(3) 学校法人の沿革

1880 年 4 月 13 日	増谷かめ、御影町弓場に裁縫塾を開設
1901 年 11 月 6 日	御影町浜西に増谷裁縫女学校設立認可
1927 年 7 月 23 日	校名を増谷女学校と改称
1927 年 5 月 12 日	校名を増谷高等家政女学校と改称
1936 年 10 月 26 日	増谷高等女学校(五年生)の設立 認可を受け改称
1945 年 6 月 5 日	戦災により校舎全焼
1948 年 2 月 28 日	西宮市獅子ヶ口に移転し、校名を夙川学院高等学校・夙川学院中学校と改称
1949 年 4 月 1 日	夙川学院の教育の基本理念にキリスト教精神を導入

1951 年 3 月 5 日	学校法人認可
1965 年 4 月 1 日	西宮市甕岩町に夙川学院短期大学家政科開学 翌年、夙川学院短期大学保育科を増設
1967 年 4 月 1 日	西宮市神園町に夙川学院短期大学付属幼稚園設置
1980 年 11 月 21 日	夙川学院創立100周年記念式典挙行
1990 年 10 月 16 日	夙川学院創立110周年、夙川学院短期大学開学25周年式典挙行
2007 年 4 月 1 日	神戸市中央区港島に神戸夙川学院大学観光文化学部開学
2010 年 4 月 13 日	夙川学院創立 130 周年記念式典挙行
2013 年 4 月 1 日	夙川学院短期大学を西宮市甕岩町から神戸市中央区港島に移転
2014 年4月 17 日	神戸夙川学院大学募集停止を文部科学省へ報告
2015 年 4 月 1 日	神戸夙川学院大学観光文化学部観光文化学科を神戸山手大学現代社会学部観光文化学科へ事業継承 夙川学院短期大学開学 50 周年
2016 年 4 月1日	夙川学院中学校・夙川学院高等学校を西宮市神園町から神戸市中央区港島に移転
2019 年 4 月1日	夙川学院中学校・夙川学院高等学校を須磨学園に設置者変更 夙川学院短期大学を神戸教育短期大学に名称変更、神戸市長田区西山町に移転 大阪府八尾市に神戸教育短期大学付属八尾ソレイユ認定こども園を開園
2020 年 4 月 1 日	神戸教育短期大学児童教育学科をこども学科に改称
2021 年 4 月 1 日	付属幼稚園を閉園し、夙川学院ソレイユ認定こども園として開園 神戸教育短期大学付属八尾ソレイユ認定こども園分園プチソレイユを開園
2023 年 4 月 1 日	神戸教育短期大学付属八尾ソレイユ認定こども園の新園舎が八尾市堤町に完成し移転

(4)設置する学校・学部・学科等

- ①神戸教育短期大学こども学科(兵庫県神戸市長田区西山町 2 丁目 3 番 3 号)
- ②夙川学院ソレイユ認定こども園(兵庫県西宮市神園町 2-20)
- ③神戸教育短期大学付属八尾ソレイユ認定こども園認定こども園(大阪府八尾市堤町 1-7-12)
分園プチソレイユ(大阪府八尾市山本町 1-8-29)

(5)学校・学科の学生数等の状況

(2025 年 5 月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
神戸教育短期大学こども学科	130	122	260	370
夙川学院ソレイユ認定こども園	99	115	99	115
神戸教育短期大学付属 八尾ソレイユ認定こども園	145	144	145	144

／分園プチソレイユ				
-----------	--	--	--	--

(6)収容定員充足率

(2025 年 5 月 1 日現在)

学校名	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
神戸教育短期大学こども学科	151%	152%	155%	144%	142%
夙川学院ソレイユ認定こども園	118%	103%	107%	111%	116% ^f
神戸教育短期大学付属 八尾ソレイユ認定こども園 ／分園プチソレイユ	96%	91%	92%	96%	99%

(7)役員の概要

①理事会構成

理事(定数 5 名～10 名、現員 5 名)

<理事長>

増谷 昇(2025 年 6 月 27 日就任)

<常勤理事>

樋口 進(2025 年 6 月 27 日就任) 院長・宗教主事

三木 麻子(2025 年 6 月 27 日就任) 業務執行理事 神戸教育短期大学長

<非常勤理事>

奥野 耕三(2025 年 6 月 27 日就任)

大仁田 拓朗(2025 年 6 月 27 日就任) 日本キリスト教団甲子園主任担任教師

監 事(定数 2 名、現員 2 名)

<非常勤監事>

大西 寛文(2025 年 6 月 27 日就任) 公認会計士

金澤 敦夫(2025 年 6 月 27 日就任) 学校法人湊川相野学園参与

②責任限定契約

寄附行為第 60 条に基づき、責任限定契約を締結しました。

・対象役員の氏名

<非常勤理事>

奥野 耕三、山崎 英穂

<非常勤監事>

大西 寛文、金澤 敦夫

・契約内容の概要

非常勤執行理事、監事、又は会計監査人が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事、監事又は会計監査人が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金 240 万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法第 92 条の規定に基づく最低責任限度額とのいず

れか高い額を限度とする。

③役員賠償責任保険制度への加入

私立学校法に従い、2019 年 11 月 1 日から AIG 役員賠償責任保険に加入しました。

・団体契約者

株式会社 AIG 保険

・被保険者

記名法人・・・学校法人夙川学院

個人被保険者・・・理事・監事・評議員・教職員

(注)法人訴訟については理事・監事・評議員

・補償内容

法律上の損害賠償金・訴訟費用等

・記名法人に関する補償

法人内調査費用・第三者委員会設置・活動

費用等

・支払い対象とならない主な場合

法律違反に起因する対象事由等

・保険期間中総支払限度額

1億円

(8)評議員の概要

評議員会構成

評議員(定数 6 名～11 名、現員 9 名)

井本 英子(2025 年 6 月 27 日就任)神戸教育短期大学教授 学務センター長

谷口 美鈴(2025 年 6 月 27 日就任)夙川学院ソレイユ認定こども園長

富家 晴子(2025 年 6 月 27 日就任)法人事務室長・神戸教育短期大学事務室長

占部 眞清(2025 年 6 月 27 日就任)(株)エムズメディア代表取締役

神木 元子(2025 年 6 月 27 日就任)

柳本 るみ子(2025 年 6 月 27 日就任)

橘 恵子(2025 年 6 月 27 日就任)

青木 豊(2025 年 6 月 27 日就任)(社)日本知的財産協会研修運営スタッフ

松井 保孝(2025 年 12 月 22 日就任)松井保孝公認会計士税理士事務所

(9)会計監査人の概要

名 称:城南監査法人

設 立:2021 年 7 月

所在地:東京都渋谷区恵比寿南 2 丁目 1 番 9 号

理事長:公認会計士 山野井 敏明

就任日:2025 年 6 月 27 日

責任限定契約:寄附行為第 60 条に基づき、次の内容の条文を監査契約書第 10 条に規定した。

受嘱者の私立学校法第 88 条第 1 項の責任について、受嘱者が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは 240 万円又は私立学校法第 92 条の規定に基づく最低責任限度額のいずれか高い額をもって、受嘱者の委嘱者に対する損害賠償責任の限度とする。

(10)理事選任機関の概要構成

本学院の理事選任機関は寄附行為に以下のとおり定めています。

寄附行為第 6 条

第 1 項 この法人の理事選任機関は評議員会とする。

第 2 項 理事選任機関の構成員は、全ての評議員とする。

(11)教職員の概要

教職員の本務・兼務別の人数等

(2025 年 5 月 1 日現在)

学校名	教員数		職員数	
	本務	兼務	本務	兼務
神戸教育短期大学	13	35	8	5
夙川学院ソレイユ認定こども園	11	12	1	0
神戸教育短期大学付属八尾ソレイユ認定こども園	17	11	1	0

(12)その他

①理事会開催日

2025 年 5 月 29 日、6 月 27 日、9 月 30 日、10 月 14 日、12 月 9 日、12 月 22 日

2026 年 3 月 19 日、3 月 30 日

②評議員会開催日

2025 年 6 月 27 日(定時評議員会)、10 月 14 日、12 月 22 日

2026 年 3 月 30 日

2. 事業の概要

(1)各設置校の教育理念

①神戸教育短期大学

短期大学の教育理念は、「愛と誠実・清新な学識」です。これは、学校法人夙川学院の寄附行為第 3 条に基づいたもので、夙川学院の前身である増谷裁縫塾創始者の教育方針と戦後導入したキリスト教精神に基づく人格形成を広く反映したものでもあります。

短期大学の教育方針は、「愛と誠実・清新な学識」の教育理念の下に、広い視野と自己表現力ならびに精神的自立心の涵養につながる教育を行うというものです。

そのために、3つのポリシー(アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー)を本学ホームページや大学案内、学生手帳などに掲げ、機会ある毎に学生に伝え、広く周知するように努めています。また、教職員、非常勤講師にも最低年に一度は教務説明会の折などに説明の機会を設けています。この教育方

針と3つのポリシーを実践するために、入学から卒業(学位授与)までを見通したカリキュラムを編成したカリキュラムマップを再確認し、ディプロマポリシーに照らした科目配置が確認できるようシラバスを作成しています。

また、2020 年度より学科名を「こども学科」へ変更し、より本学の教育内容が伝わるようにしています。

②夙川学院ソレイユ認定こども園

キリスト教精神に則って、豊かな情操教育を行い心身の発達を助長し幼児期に適した望ましい人間形成の基礎を養えるような教育を実施しております。

③神戸教育短期大学付属八尾ソレイユ認定こども園

本学院が重視するキリスト教の精神を基とし、乳幼児を教育・保育し、適切な環境を与え、乳幼児の心身の順調な成長と精神の健全な発達を助長することを教育・保育理念としています。

また、「明るく健やかな子ども、美しい心の子ども、寛容な心を持つ子どもの育成を目指す」ことを教育・保育目的としております。

(2)各設置校のキリスト教教育活動

①神戸教育短期大学

2025 年度も昨年度同様に、毎週月曜日と金曜日の 2 日間礼拝を行いました。学生が奏楽を担当することが定着し、「キリスト教学」を受講する学生を中心に聖書の教えに耳を傾けています。クリスマスの4週前からイエス・キリストの降誕を待ち望む期間であるアドベントの初日(12 月1日)には、イルミネーション点灯式を行い、学生たちが参加しました。また、12 月 19 日は、クリスマス礼拝を行いました。同時に、クリスマス献金として本学施設実習で協力を得ている社会福祉法人一羊会への寄付金を集める活動も行っています。



②夙川学院ソレイユ認定こども園

「新キリスト教保育指針」に基づいて、保育のカリキュラムを作成し、「年主題」「月主題」「聖句」「こどもさんびか」を保育活動に取り入れています。

「年主題」を柱として保育を実践することにより保育者の具体的な考えが深まり、子どもの個々の発育、発達、個性の違いを認めながら工夫を加えることにより、子どもの生活が豊かになるようにしました。

週一回礼拝を守ることによって「聞く力」を養うとともに、感謝の気持ちを育み「ありがとう」が言える子どもになりました。また、日常のお祈りを通じて常に神さまを身近に感じることができます。

クリスマス礼拝では年長組は聖誕劇でクリスマスの日の出来事を伝える役目を果たすことができました。



③神戸教育短期大学付属八尾ソレイユ認定こども園

休園したこども園の園児を受け入れての開園当初は、宗教教育活動を控えていましたが、現在は園生活の中に自然な形で宗教教育活動を取り入れています。2025 年度も、週間礼拝・誕生会礼拝・花の日礼拝・収穫感謝祭・クリスマス礼拝を実施し、子どもたちが落ち着いた気持ちで参加できるよう、一人ひとりの思いを大切にしたい礼拝を心がけました。週間礼拝では、静かな雰囲気の中で話を聞いたり歌を歌ったりしながら、心を落ち着けて過ごせる時間となるよう取り組みました。また、クリスマス礼拝での聖誕劇では、これまでの経験を活かしながら、それぞれが役割に責任を持ち、友だちと協力しながら堂々と発表する姿が見られました。宗教行事を通して、感謝する心や思いやりの気持ちを育む機会となりました。



(3)教育力向上及び研究に係る事業

①神戸教育短期大学

(ア)教育内容及びカリキュラムの内容

・カリキュラム改変

2022年度入学生より、教職課程(幼稚園教諭二種免許状)において、「領域および保育内容の指導法に関する科目」の「領域に関する専門的事項」として、5領域にわたり「こどもと健康」「こどもと人間関係」、「こどもと環境」「こどもと言葉」「こどもと表現」の5つの新科目を設置するというカリキュラムに改編しました。さらに学生の技術向上のために、新たな授業科目を模索するとともに、選択科目をより受講しやすくするような履修時間割についての改善に取り組んでいます。

2024年度から新規科目として「ピアノ演習」「立体造形」「身体表現あそび」を追加しました。また、2023年度に「キッズダンス(HipHop)」は、「キッズダンスA(HipHop)」「キッズダンスB(HipHop)」と通年で学べるようにしました。

さらに、就職先として公務員を目指す学生をしっかりとサポートしていくために、「キャリアサポートA」「キャリア

サポートB」を新規科目として設定し、単位認定はないものの「キャリアサポート」授業へ繋ぐ学びとして、「プレ・キャリアサポートA」「プレ・キャリアサポートB」の時間も確保しています。2024年度は「プレ・キャリアサポートA」と「キャリアサポートA」を行いました。外部企業による公務員対策講座と連携して受講を促し、公務員試験の合格率向上と小学校教諭二種免許状・特別支援学校教諭二種免許状の取得率向上を目指しています。

2025年度は、専門教育科目のさらなる充実に向けて、新規科目として、「実習基礎」、「お笑いコミュニケーション」、「キッズ防災」の3科目を開設しました。このうち「実習基礎」は必修科目として位置付けました。

また、これまでオンラインコースにおいて培ってきた多様なメディアを高度に利用した授業を通常授業にも展開し、オンデマンド授業と対面授業を組み合わせたハイブリッド型授業を導入しました。これにより学生は多様な学修方法を経験し、主体的な学びの深化が期待されます。

・長期履修生制度

2015年度入学生より、2年間のカリキュラムを3年間で学ぶ長期履修生制度を導入しています。経済的に困窮しているため働きながら学びたい者、公務員としての教員採用を目指す者、ゆとりの時間に保育現場でボランティアを希望する者などの「明確な目的意識を持つ志望者」を対象とし好評です。近年の学生のライフスタイルに合致した、多様な学び方ができる制度と受け止められています。

保育士資格、幼稚園教諭二種免許状の取得と卒業に関する授業は、午前中の2コマに開講し、午後の時間をそれぞれがより有効に使えるような科目配置としており、午後には民間資格に繋がる科目を配置するこのカリキュラムは、長期履修生ばかりでなく、2年制の学生にも学びの幅が広がるものとなっています。

・「実習基礎」

実習時期見直しに合わせ、「実習基礎」の科目を新設しました。従来は、保育実習ⅠBを1回生の9月、保育実習ⅠAを1回生の2月に実施していましたが、2025年度は移行期間とし、2026年度からは保育実習ⅠAおよびⅠBは1回生の2月から3月にかけて実施する体制へと変更します。

「実習基礎」は、各実習指導における学修に加え、保育実習および教育実習全般を通して必要となる基礎的知識・技能の修得を目的として開設しました。

これにより保育士資格・幼稚園教諭免許の取得を実習の側面から体系的に支援する体制の整備を図っています。

・「お笑いコミュニケーション」

2025年度新規科目として「お笑いコミュニケーション」を専門科目として新設しました。吉本アカデミーと提携し、吉本所属の構成作家を講師とし芸人を交えた実践型授業です。お笑いの技法を学び、保育現場に必要なコミュニケーション力、表現力、協働力を育成することが目的です。

・「キッズ防災」

子どもに関わる仕事に就く人に必要な、防災の知識やスキルを学び、保育現場で活用できる実践的な防災力を身につける「キッズ防災」の授業を専門科目として2025年度に新設しました。一般社団法人保育の寺子屋の認定する「保育防災スペシャリスト(初級)」の資格と連携しています。2025年度は32名が資格を取得しました。

・「保育英語」

2019年度入学生より、社会のグローバル化に対応できる保育者養成のために、「保育英語」を導入しています。日本語以外の多様な言語にも対応できる保育者への第一歩として、「幼保英検」(幼児教育・保育英語検定協会(幼保英語検定協会))の資格取得を盛り込み、学生各自の実力に応じた級の合格を目指します。保育英語を学ぶなかで、英語への苦手意識をなくすだけでなく、保育の歌や手遊びを学び、保育の幅を広げていける保

育者を育てます。一般社団法人幼児教育・保育英語検定については、2025年度は、4級13名が合格しました。

・「ICT保育」

2019年度入学生より、専門教育科目の中に「ICT保育Ⅰ」を開講しました。鹿児島県鹿屋市にある「つるみね保育園」を参考に、保育内容の向上と保育者の業務の効率化という2つの観点でのICT活用について学ぶ目的です。内容は、タブレットを利用し、世界の情報を子どもたちに即時に提示したり、幼児向けアプリを利用する遊びを提供したりすることで、子どもたちの好奇心を高め、思考力、表現力を深めます。そのなかで、ICT技術を身近なものとし、保育者にとって必要な業務にもタブレットを活用して、日誌作成にも日常的にコンピュータを活用する力をつけています。なお、2022年度からは教授内容を精選し、新たに「ICT保育」として科目を再編し教育の質・内容共に向上を図っています。なお、2023年度は「ICTと保育」と改称しています。

・「初年次教育」

初年次教育について、2021年度より、1年生全員に向けて対面授業と遠隔授業を併用し開講しました。その重要性を鑑みて、2022年度からは、必修科目に位置づけています。大学生としての学び方や、よりよい保育者になるための指導につなげる役割を果たすべく、各方面の外部講師を招いたり、身近な社会人として卒業生とZoomで繋げたりしながら、内容の充実を図っています。

・「在宅保育」

2022年度より「在宅保育」を専門科目の選択科目として新設しました。保育士資格を取得することを要件とし、その上で本科目を修了した者は、全国保育サービス協会の「認定ベビーシッター」資格が取得できます。2025年度は28名が資格を取得しました。

・在学中に四つの国家資格・免許取得

2019年度、小学校課程を廃止し、保育者養成を主眼としてきましたが、星槎大学との教育連携により、通信教育課程で小学校教諭・特別支援学校教諭の免許取得が可能になり、本学通学課程と併せて四つの免許・資格を取得することが可能となりました。特別支援学校教諭二種免許は取得することも魅力ですが、保育者にとっても有益な学習内容として印象づけられます。

2025年度は、3名が小学校教諭二種免許状を、4名が特別支援学校二種免許状資格を卒業時に取得しました。

・高大連携講座

本学では、兵庫県立西宮甲山高等学校と高大連携講座の提携をしており、2025年度も、4月24日、5月8日、5月28日、11月6日の計4回に講座の開催を予定しました。最初の3回は同高等学校に教員が出向き、教育総合類型2年生を対象に保育に対する理解を深める授業を行います。最後の回は本学へ生徒を招いて、施設見学や卒業生との交流をしました。

また、高校生への学びを広げる高大連携を拡充する中で、本学に入学者の多い高校と協議し協定校の条約を結んでいます。入学が決まった協定校の生徒は希望すれば入学前に科目等履修生として、本学で「先取り学習」を受講することができます。2025年度は12校と協定を締結しています。

(イ)FD(教育内容・資質向上)の取組

・授業アンケート

FD委員会では、教育の改善に取り組むため、PDCAサイクルの観点を重視しています。2019年度より、授業担当者には、授業評価アンケート及び授業評価アンケートに対する授業担当者のコメントに加え、授業改善報告書の作成を課しています。授業を振り返ることにより改善を行い、次期の授業をよりよいものにするよう努め

ます。この授業評価アンケート後の授業担当者のコメントと授業改善報告書の作成は、年 2 回(前期・後期)行い、アンケート結果、授業担当者のコメント、授業改善報告書については、学内で公表しています。

また、2019 年度から授業評価アンケートにかかわる業務にユニバーサルパスポートを活用しています。これにより、事務効率をあげることができています。これまでの外部業者によるアンケート集計が、学内でできるようになり、学生が回答後、すぐにアンケート結果を明らかにすることができました。

今年度のアンケート項目は、以下のとおりです。

- ①あなたは、この授業を意欲的に受けた。
- ②あなたの事前・事後学習はこの授業を理解するために役立った。
- ③この授業の進め方や課題の量は自分にとって適切だった。
- ④この授業は講義概要(シラバス)に沿った内容であった。
- ⑤教員の話し方は聞きやすく、声の大きさも適切であった。
- ⑥教員の学生への対応は公平に適切に配慮されていた。
- ⑦授業は時間通りに行われた。
- ⑧学生の私語や居眠りなどに対応し、授業にふさわしい雰囲気が保たれていた。
- ⑨プリントや視聴覚教材などの教材が適切に利用された。
- ⑩総合的に判断して、この授業を受講することにより、新しい知識あるいは技術を得ることができた。
- ⑪この授業内容に対する意見があれば、自由にご記入ください。

2025 年度のアンケート結果を、以下に示します。

実施期間は 2025 年 前期 7 月 17 日～7 月 26 日、後期 2026 年 1 月 28 日から 2 月 12 でした。学生は、上記①から⑩の設問について、「とてもそう思う、ややそう思う、あまり思わない、全く思わない」の 4 つの選択肢のうち 1 つを選び回答します。また、⑪は授業に対する自由記述の項目です。

前期は、設問⑩「総合的に判断して、この授業を受講することにより、新しい知識あるいは技術を得ることができた。」に 72%の学生が、「とてもそう思う」を回答しています。設問の①、②、③、④、⑤、⑧は 60%以上で、その設問以外は、71%以上が「とてもそう思う」を選択しており、「ややそう思う」と回答した結果を加えると、全設問において、94%以上の結果であり、学生は概ね全体の授業に対して満足しているということが窺えました。また、設問③の「この授業の進め方や課題の量は自分にとって適切であった。」は、約 6%の学生が「あまり思わない・全く思わない」を回答しており、すべての質問項目のうち最もマイナス評価が高い項目であることから、設問②や⑤、⑧、⑨の結果を反映した結果であることが窺われました。

今年度は、殆どの教員の授業内容は講義概要(シラバス)に沿って実施されており、学生の選択科目に関しても期待に応えた授業内容であったことが窺える結果となりました。後期は、設問②の「あなたの事前事後学習はこの授業を理解するために役立った」以外の設問は 60%以上の学生が「とてもそう思う」と回答し、「ややそう思う」の回答を加えると全設問において約 93%となります。前期の結果よりは低い評価結果となりましたが、後期の授業に関しても、全体的に満足した授業であったことが窺われます。

また、各設問において、前期の回答結果よりも低い評価結果であったことは前期よりも授業の内容や進み方、課題の量などが影響したのではないかと窺われる結果でありました。

学生が授業にかかわる「ご意見箱」の今年度の投書は、5通でした。中には授業内容、授業環境の改善を訴える投書がありました。投書のあった授業について FD 委員会で、授業担当者へ確認し、回答を掲示板へ掲示

のうえ、学生へ周知を行いました。その他の内容は、施設に関連する要望や、文房具の販売を希望する意見書がありました。

・教育実践研究紀要

FD 委員会では、教育に関する実践を掲載した『教育実践研究紀要』を発行しています。2025 年度は、『神戸教育短期大学教育実践研究紀要』第 8 号を 3 月 31 日に刊行しました。第 8 号は、6 本の論文を掲載して授業研究実践の成果を公表しています。

・授業公開

2016 年度から始めた授業公開(2023 年度より「公開授業」を「授業公開」に名称変更)今年度も実施しました。本学教員の授業が対象で、本学教職員および非常勤講師が授業を見学することができます。今年度は前期の 4 月 21 日から 7 月 25 日と後期の 10 月 15 日から 2 月 9 日までの期間で見学対象授業と見学希望者を募った結果、前期 1485 コマ、後期 1576 コマの授業を見学対象授業としました。公開授業を始めて8年目となり、更に教員相互に有意義な活動とするために、参観者は、授業参観後「公開授業後の振り返りシート」に感想や改善点等の意見を書き込むようにしました。この「公開授業後の振り返りシート」は、授業者の授業改善に役立っています。

・FD 研修会

2025 年度の第1回目の研修会は、4 月 2 日に外部講師を招いてチームビルディングの研修会を学内で実施しました。研修内容は、学生の一人ひとりのモチベーションをあげていくことが目的である「チームビルディング」を教員同士が学生へ実施することを想定した上で、チームビルディングのための手法を体験しました。課題は、「アイスブレイキング」の「ソーシャルスタイルチェックシート」、「インタビュー」の 2 種類を体験しました。研修後、教職員から以下のような意見がありました。

「教員、職員共同で行われたため、記者会見ゲームを通じて交流を深めることができ、現在求められている今後の大学組織における教職協働の基本的な基盤作りにつながる機会となったと感じる。」、「学習スタイルの演習では、改めて自分自身の分析をする機会は十分になく、「自己理解」に繋がる興味深い内容であった。自らが置かれる立場によってチャートが変形するとのことで、今年度の記録を残しておき、再度行う機会があったら比較をしてみようと思う。また、普段一緒に仕事をしている教職員と形を比べると、抱いていたイメージと一致する人、意外とそうでない人など、「他者理解」にも繋がった。」、「日頃から様々な傾向をもっているメンバーで構成されている“チーム”で仕事を行っているという意識をもって、コミュニケーションを通して良好な関係を築いていくことがチームの活性化やモチベーションの向上、個々の強みを発揮して業務遂行する土台づくりに繋がっていくと感じた。座学だけでなく、グループワークがあることでより主体的に取り組むことができたと感じた。普段、業務以外の話を教職員でする機会は少ないので貴重な機会であった。」

第 2 回目の研修会は、2025 年 6 月 25 日に一般社団法人キリスト教学校教育同盟より派遣された安藤理恵子氏を講師として「保育者におけるキリスト教教育」をテーマに開催しました。キリスト教教育の精神に基づいた学生との関わりについて、理解を深める貴重な機会となりました。研修後、教職員から以下のような意見がありました。

「講師自身の経験に根付いた、キリスト教者ではない学生にとってのキリスト教の受け取られ方をベースにした考え方が参考になった。本学が聖書やキリスト教を学ぶ時間があることの意義は、キリスト教そのものの素養を高めることだけでなく、聖書における「他者の側に立つ視点」に触れ、学ぶ機会につながるものであると、その位置づけや意義について再認識する機会となった。キリスト教における創生にまつわる理念はキリスト教学

校の持つ雰囲気自体に影響を与えており、そこではマイノリティを内包する「少人数」を生かす空気、小集団を大事にする集団の在り方を規定するという話が印象に残った。キリスト教学校である本学における理念として、学生の支援、ひとりひとりに寄り添う姿勢が大切であることを改めて認識した。」「研修会の中では特に「すでに与えられている力の可能性」という言葉が強く印象に残っている。職員として“その学生に与えられた力”が何かを見つけ、その力が最大限発揮できるサポートをすることで一人ひとりに向き合う教育に繋がると思った。自分で考える前に「どうしたらいいですか？」と窓口へ聞きに来る学生が増加していると感じているため、即座に対応し、回答が必要なことは出し、そうでない場合は学生自身が自分なりに考え、答えを出していけるようなサポートや声掛けを心がけたいと思った。」

第3回目の研修会は、高等教育機関における障害者差別解消法と合理的配慮の理解度テストを2025年11月5日から2025年11月21日までの期間に実施する研修会と位置づけ、実施しました。高等教育機関における障害者差別解消法と合理的配慮に関する理解度テスト42問の回答を全教職員対象に実施しました。研修では、理解度テストを通して法の趣旨や合理的配慮の基本的な考え方を確認するとともに、高等教育機関における具体的な支援事例について共有し、日常の教育・業務場面で求められる対応について理解を深めました。特に、支援が必要な学生一人ひとりの状況に応じた適切な支援の在り方を再認識する機会となりました。

合理的配慮については継続的な取り組みの重要性を改めて認識しました。今後も研修等で様々な学びの場を作っていきます。

(ウ)キャリア教育・支援の推進

2025年度は、学生の就職にかかわるキャリア教育・支援について、就職活動の基礎的な知識の指導を行うために、「就職活動の手引き2025年」を作成、卒業予定学生を対象にキャリア支援室にて配付、説明しました。

手引きの内容は「就職活動の心構え、就職先の選択、就職活動の流れと手順、面接試験対策、履歴書の書き方」など、就職活動の開始から内定を得たあとの事務手続きまで、就職活動における一連の流れが把握できるようにまとめました。

キャリア支援室は、学生が自由に就職情報資料を閲覧できるスペースを設け、園・施設・企業の求人ファイル、卒業生の受験結果報告書、編入学資料ファイル、就職関連冊子等を整備し、個別の相談や就職に関する書類作成の指導ができるスペースも設置しています。利用者数は延べ352名です。(目的別内訳: 求人閲覧73名、就職相談153名、履歴書添削45名、面接練習等81名)。また、自宅においても就職情報を入手できるようポータルシステムの掲示板を用いて随時の求人情報を概ね週に1回の頻度で配信し、年間合計41回の配信を行いました。

在学生に対する就職支援として開催している学内就職フェアは、2025年度は85施設の参加があり、就職情報等を共有するよい機会となりました。また、2025年度より新たに、卒業年度生を対象とする「就職活動対策ミニ講座」を開始しました。開催時期は6月17日～7月24日。4回シリーズで各回2回ずつ実施しました。

就職活動における個別の就職相談については、キャリア支援担当職員と担当教員、クラスアドバイザーが連携して支援にあたり、個別のニーズに合わせたきめ細やかな相談業務を行いました。

他にも、以下の4点について計画してきました。

・就職フェアへの参加を促す

自分の適性に見合った園を見つけだすには、多くの園を見て検討する必要があります。各地で開催される就職フェアは、保育所や幼稚園などの保育施設が数多く参加しています。これに、学生が赴くことにより、様々な

園の保育者から、園の方針や勤務形態を聞くことができます。また、一度に多くの園の情報を得ることにより、自分に見合った園を検討する機会になります。学生には、新学期のオリエンテーションにおいて、全学年に就職フェアへの参加を促し、情報の収集と園見学に繋げることを推奨しています。

・就業満足度の高い公務員への就職を促す

本学では、公務員の待遇面のメリットを伝えています。入学直後、1 年生全員に対して公務員について具体的に福利厚生や待遇などを伝えることで目標とできるようにしています。公務員就職へのバックアップとして、公務員試験対策講座を開講し、希望者は無料で受講できるようにしています。2025 年度は、前期に保育士コース面接対策(15 コマ)、後期は保育士対象と小学校教諭対象に各 15 コマずつ開講しました。

・保育職の早期離職を防ぐための対策

早期離職者の就業時の状況を聞くと、「他の園を見学しないで、焦ってここに就職した」、「ここは良いところだから就職したらと言われたから」ということを挙げていました。そこで、今年度も、「早く就職を決定する」から、「じっくり考えて就職を決定する」を学生には指導しています。また、他者による意見により就職を決めるのではなく、「自己決定により職業選択をする」大切さを指導してきました。時間をかけて就職先を決定する方法を今後も継続していきます。

卒業生の就職状況の確認は、主に実習巡回訪問時に行っています。巡回報告書には、卒業生の動向を記入する欄を設けているため、勤務状況を知ることができます。本人からの聞き取りや、施設長からの情報を得て、就職のマッチング評価をすることができます。それらに加えて 2023 年度より実施している卒業生の進路先にアンケート調査を 2025 年度も依頼し、卒業生の評価を聴取しました。

・就職強要をする実習園の対応について

学生には、就職の意思がないのに、実習園から内定通知をもらった場合は、すぐに就職支援室に相談するよう指導しています。この問題があった場合は、実習園から大学に実習評価表が届いた後に、就職担当者から内定辞退の対応をしています。今後の課題は、実習巡回時に学生が就職の強要をされることがないよう、実習園に啓発していくことです。

(エ) 付属施設の事業

・図書館

図書館では、こども学科としての機能を高めるため、絵本や児童書・絵本研究書など絵本関連資料のさらなる整備に力を入れると同時に、公務員試験対策の関連図書、幼稚園教育要領・保育所指針等の改訂に伴う解説書の充実にも努め、十分な水準の学術資料などを収集しています。

蔵書数 62,865 冊のうち、14,662 冊(和書 14, 177 冊、洋書 485 冊)が絵本関連資料で、大型絵本や貴重な図書も数多くあります(2026 年 3 月 31 日現在)。また、2020 年から開講された「認定絵本養成講座」の受講生のために絵本に関する情報提供や資料の紹介も積極的に行いました。一方、教育・保育実習に行く前に実習で用いる絵本をテーマや対象年齢別に選定し、掲示して利用の便宜を図っています。



図書館の業務として図書の整理や管理・相互利用業務のほか、新入生がプレ学習で推薦文を書いた本を展示しています。推薦本のうち、未所蔵本は購入し、学生の意見を反映した図書の購入選書に努めています。

また、教員への研究支援として、本学の「研究紀要」と「教育実践研究紀要」を JAIRO Cloud と J-STAGE へ登録し、国内外の教育研究機関との情報提供システムを構築しています。

子育て広場「うらら KOBE」に来室する親子にも図書館を利用できるシステムを作り、地域社会のニーズに応えています。

図書館の限られた場を有効利用するため、図書等の廃棄については「図書館利用および除籍図書処理規程」に従って実施しています。（図書館利用および除籍図書処理規程）。2025 年度は鶴岩キャンパスからの移転時を含む不明本（紛失図書）をすべて除却し、実資産との整合性を確かにしました。

〈除籍図書の明細〉

- ・除籍対象冊数:2,693 冊
- ・受入価格合計:4,490,242 円

・子育て広場 うららKOBE

2019 年 11 月 20 日に本学内1階に「子育て広場 うららKOBE」が開室しました。学生の応募の中から、名称やキャラクター、ロゴマークを決めてスタートしました。学内に子育て世代の親子やその家族が、気軽にゆったりと過ごすことができる交流の場を提供しています。学内立地という特色を活かして、大学生のアルバイト・ボランティアを日常的に受け入れて学生の学びの場ともなっています。



2025 年度利用者総数は延べ 2,377 名（総延べ利用者数 10,790 名）、新規登録家族数は 134 組（総延べ登録家族数 216 組）となりました。

市内区域内の利用者が 99%以上で、一日の平均利用者数は 17.5 名です。学生のアルバイトの登録者数は 10 名、延べ 265.5 時間の勤務となりました。学生ボランティアは1名でした。

週 3 日の開室ですが、利用者親子と学生のふれあいの場となり、学内に和やかな雰囲気ができ、好評のため、2025 年 3 月からは開室日を週 4 日に拡大しました。



クリスマスには、子育て支援広場うららKOB Eを会場に、学生ボランティアがクリスマス会を開催し、クリスマスコンサート、楽器体験、絵本の読みきかせなどを行いました。

また、子ども学ゼミでも、うらら KOB E を会場にミニコンサートや募技保育を行い、ゼミ発表の場としています。



(2025 井本ゼミ)



(ボランティアクリスマス会)

2025 年度は日常の流れを大切にしながら子育て世代の親子やその家族が、気軽にゆったりと過ごすことができる安心・安全な子どもたちのあそび場を提供することを目的に開室しました。日時を決めた各種イベントや開室時間内にいつでも自由に取り組めるようなイベントを月毎に実施しました。季節や行事にあわせて、4 月「ちょうちょのステッキづくり」、5 月「母の日製作や風船遊び」、6 月「父の日製作や傘のモビールづくり」、7 月「水遊び」、8 月「うらら祭り」、9 月「敬老の日プレゼント作り」、10 月「ハロウィンガーランド作り」、11 月「おもいも製作」、12 月「クリスマス会」、1 月「福笑い製作」、2 月「節分製作」、3 月「イースター製作」を実施しました。

(オ)研究活動支援

・文部科学省の競争的資金(科学研究費補助金)への応募・獲得

2025 年度については、科学研究費補助金へ 3 件応募したほか、研究活動スタート支援「学校教育と吃音の歴史的変遷に関する研究——言語障害教育と当事者運動の相互作用」(2025 年 7 月～2027 年 3 月)が本学教員を研究代表者として新規採択されました。

・紀要の発行

2025 年度は『神戸教育短期大学 研究紀要』第 7 号(2026 年 3 月刊行)に 2 本の論文および 1 本の研究ノート、『神戸教育短期大学 教育実践研究紀要』第 8 号(2026 年 3 月刊行)に 6 本の教育実践研究論文が掲載されました。

・研究倫理教育の実施

本学の専任教員全員がオンデマンド形式の研究倫理教育プログラムを受講しました。

②夙川学院ソレイユ認定こども園

(ア)教育、保育の方針

乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、「学校教育のはじまり」です。よって本園の教育・保育方針は「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に依拠し下記の通りとします。

- ・自ら主体的に活動しようとする態度を身につける。
- ・豊かな感性や表現力を養い、創造性を豊かにする。
- ・身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感を持つ。
- ・外国語への興味や ICTを活用した保育によりプレゼンテーション能力を育む。

(イ)重点的に取り組む保育の柱

・明るく健やかな子を育てる保育

保育計画を作成し、子どもの健康な生活に必要な習慣や態度を育てました。また定期的な園医による健康診断を行い、疾病予防や健康について保護者への啓発に努めました。

・音楽、造形、運動あそびを基本とした保育

音楽遊びでは自分から歌ったり、楽器あそびをしたりしたいという気持ちが育つよう、歌や曲を聞いたり、自ら音楽あそびに取り組みやすいような環境を整えたりしました。また運動あそびや造形あそびでも子どもの発達や興味に即した環境を準備し、段階を追った発達が出来よう努めました。保護者と子どもの成長の喜びを共有する場として、5 月に運動参観日、7 月に音楽参観日、10月に運動会、12 月にクリスマス祝会を設けました。2 月に 1 年間の成長の発表の機会として劇遊び会を行いました。





・ICTを活用した保育

友達にプレゼンテーションすることを通して自分の考えや思いを表現したいという気持ちを育て、表現することの楽しさを味わえるようにしました。

また ICTを活用し、八尾ソレイユ認定こども園の園児とも顔を合わせながら話したり、ゲームをして遊んだりしました。



・食育を推進する保育

食に関わる絵本や紙芝居等の教材を教育・保育に取り入れたり、給食の食材についてその働きを子ども達に分かりやすくイラストで毎日掲示したりして食に対する子どもの関心をひきました。また栽培した野菜を使って調理パーティーを行いました。



・共に育ちあう保育(インクルーシブ保育)

支援の必要な子どもが、こども園での生活を通して共に成長できるよう、保健師訪問やアウトリーチなど関係機関の助言や援助を活用し、指導内容や指導方法の工夫を行いました。また期別の目標を保護者の願いを聞き設定することで、家庭との連携を細やかに行うことができました。

・小学校への円滑な接続に向けた保育

連絡会(つながり)を通じて小学校教諭と保育教諭の情報共有を図り、園生活から小学校生活への円滑な接続が出来るように努めました。

また月 2 回の書き方を通して文字に興味、関心を深め、身の回りの文字を読んだり、形の違いに気づいたりなど意欲を持って小学校の学習に取り組めるようにしました。

・地域との関わりを重視した保育

地域の開かれたこども園を目指し、地域の子育て家庭に園庭開放を週 1 回行っています。また遊びの広場 4 期(1 期 15 回連続開催)も計画しました。参加者の5名が 2026 年度の入園を希望しています。

2025 年度より新に地域の0歳児・1歳児対象に週3回子育てサロンを開催しました。年 101 回開催し(内催し会7回)は登録者数 29 名です。

花の日礼拝では、色々な人との関りを通して自分や回りの人に愛情や感謝の気持ちを持ち、しなやかに人とつながれるよう年長児が地域の消防署員、警察官等に花を贈りました。また、園内の調理など日ごろお世話になっている方にも花を贈りました。

(ウ)付帯事業の実施

保護者・子どものニーズに応えると共に、こども園の特色をアピールするため、2012 年度より付帯事業として各種講座を実施しています。「イングリッシュパーティーランド」「楽しいソバレエ」などバラエティーに富んだ内容で、それぞれ参加した子どもたちは、大変楽しんで活動することができました。また月2回土曜日には、園児のみならず、地域の子ども達にも告知を行い、ダンス教室を開催しています。

(エ)英語あそび・書き方・ロックダンスの導入

今年度も、3、4、5 歳児で「英語遊び」を導入しました。週 1 回、水曜日にネイティブ講師が一日中幼稚園に滞在し、子どもたちと礼拝や誕生会なども一緒に過ごすなど、英語遊びだけでなく保育の中でより密に過ごすことができました。付帯事業として放課後、年中・年長組から参加できる「イングリッシュパーティーランド」も引き続き好評で多くの園児が受講しました。早くから英語に親しみ遊びながら学ぶことで自然と英語を身につけていくことや、異文化への興味関心が持てるようにしています。



加えて 3、4、5 歳児で外部講師を招いて 2021 年度より「かきかた」、2024 年度より「ロックダンス」を導入しました。「ロックダンス」ではしなやかな心と体作りを目指し取り組み、しっかりとした体幹もできつつあります。

「かきかた」では楽しみながら段階を追って文字への興味関心が膨らむことと同時に、文字に向かう時の姿勢や、集中して物事に取り組むことも少しずつ身につけています。



(オ)「預かり保育(にこちゃんルーム)」の実施

保護者のニーズに対応し、2012年度より行っている預かり保育を1号認定園児に対して今年度も、朝8:00～8:59、保育終了後から午後6まで実施しました。学年の枠を超え、園庭遊びを中心に楽しく過ごすことをねらいとしています。室内においても預かり保育のみで経験できる塗り絵や、ゲーム等の玩具を用意して日常の保育との差別化を図りました。

子どもたちが園生活に慣れた頃から利用者が増え、保護者から「安心して預けられる」、子どもたちからも「楽しかった、もっと遊びたい」と言ってもらえました。



(カ)夏のプール遊びについて

昨今の異常気象により6月～8月の多くの日が「暑さ指数28」を超え、プール遊びが3回のみの実施となりました。そこで天候に左右されずプール遊びを楽しむための解決策として、スイミングスクールでのプール体験を実施しました。その後保護者の方にアンケートを実施し、参加児童の保護者の方すべての賛同を得ることができました。それを踏まえ2026年度は3, 4, 5歳児のスイミングスクールでのプール体験を実施する予定です。

③神戸教育短期大学付属八尾ソレイユ認定こども園

(ア)教育及び保育のねらい

乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が養われる極めて重要な時期であることから、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえて、子ども自らが主体的な活動ができるような教育・保育を行っています。

本園と2021年度に開園した分園では、音楽あそび・造形あそび・運動あそびの3つを基本にし、教育・保育活動の充実を図り、さらにICTを活用した教育・保育により外国語及びプレゼンテーション能力の育成や、食育を推進する保育に力を入れ、保護者とともに近隣住民との関わりを重視して、さまざまな子どもたちと共に育ち合うインクルーシブ教育・保育をめざします。

(イ)ICTを活用した教育・保育

2023 年度より移転した新園舎では、全館 Wi-Fi 環境を活用しながら、教育・保育活動の充実に取り組んでいます。2025 年度も神戸教育短期大学と Zoom 等を活用した連携を継続し、学生が授業で制作した絵本や仕掛け紙芝居の発表を通して、子どもたちとの交流を行いました。子どもたちは学生による発表に興味を持って参加し、さまざまな表現に触れる機会となりました。また、学生にとっても実際の子どもたちと関わる貴重な学びの場となり、双方にとって有意義な交流の機会となりました。また開園当初より、保護者から毎週 1 枚送信される写真を活用し、それを題材とした発表活動を通して、園児のプレゼンテーション能力の育成に取り組んでいます。発表の場において、自分の考えを整理し相手に分かりやすく伝える力が育まれ、特に 5 歳児においては、子ども同士で進行や意見交換を行うなど主体的な活動へと発展しました。

(ウ)英語・ダンス・かきかた

2025 年度も、3 歳児から 5 歳児までを対象に、英語・ダンス・かきかたの各レッスンを継続して実施しました。英語活動では、イギリス人講師による「えいごであそぼう」を取り入れ、歌や体を動かす活動を通して、楽しみながら英語に親しめる環境づくりを行いました。子どもたちは英語でのやり取りにも積極的に参加し、自ら表現しようとする姿が多く見られるようになりました。ダンスレッスンでは、年間を通して身体を動かす楽しさを感じながら、柔軟性や体幹を養う活動に取り組みました。リズムに合わせて体を動かすことで、運動能力やバランス感覚の向上につながり、友だちと一緒に表現する楽しさも育まれました。かきかたレッスンでは、月 2 回の活動を通して、文字に親しみながら正しい姿勢や鉛筆の持ち方などの基礎を学びました。文字を書くことへの興味や意欲を大切にし、一人ひとりが楽しみながら取り組めるよう工夫しながら指導を行いました。

(エ)お楽しみ保育・園外保育

2025 年度も、年長組を対象にした「お楽しみ保育」を実施しました。活動内容として、縁日やスタンプラリー、ミニゲーム、記念品制作など、子どもたちが主体的に楽しめるさまざまな企画を行いました。特に夕食づくりでは、買い出しから材料準備まで子どもたち自身が取り組み、食への興味や生活に関する関心を深める機会となりました。また、職員による出し物も実施し、子どもたちにとって思い出に残る充実した一日となりました。



園外保育については、春の園外保育として 4 歳児・5 歳児が堺市立ビッグバンを訪れ、体験型施設での活動を通して学びを深めました。また、秋の園外保育では 3 歳児から 5 歳児までが神戸どうぶつ王国へ行き、さまざまな動物とのふれあいを通して豊かな感性を育む機会となりました。



(オ)食育

元気な心と体をつくるために、食べることの楽しさを実感する、豊かな食の体験を積み重ね、望ましい食習慣を身につけるための食育を行っています。



(カ)地域との関わりを重視した保育

花の日礼拝・収穫感謝祭には、近隣住民、消防署、交番に感謝の気持ちを込めた花とメッセージカードを届けました。

今年度、新たな取り組みを2つ行いました。1 つ目は近隣との連携として、高校生との交流活動を実施しました。高校生が主体となって企画した「お店屋さんごっこ」に園児を招待していただき、園児はゲーム・クイズ体験を通して楽しみながら他者との関わりを深める機会となりました。異年齢交流により、社会性やコミュニケーション力の育成にもつながる有意義な取り組みとなりました。



2 つ目は八尾市清掃事業部の協力のもと、4 歳児 5 歳児を対象に、ごみの分別方法やごみ出しのルール、ご

み削減の大切さについて学ぶ機会を設けました。紙芝居や劇を通して、子どもたちにも分かりやすく環境への意識を高める内容となり、楽しみながら学ぶことができました。また、実際のごみ収集車の見学も行い、普段間近で見ることのできない車両や作業の様子に、子どもたちは大変興味を示し、喜ぶ姿が見られました。今回の取り組みを通して、環境保全や資源の大切さについて考える良い機会となりました。



(4) 学生の支援に係る事業

①神戸教育短期大学

在学期間 2 年間の学生は、限られた修業年限の中で資格及び免許取得を目指すため、授業が過密です。在学期間 3 年間の長期履修生も学生の多くは、資格取得の授業に参加したり、アルバイトをしたりするなど自由な学外活動でも学生生活を充実させてしています。そのため、課外活動を自主的に行なうことは難しい環境になっています。

この状況下にあって、授業等で身につけた知識や技能を地域貢献や大学の魅力アップに繋がる目的をもつ活動及び団体に対して、課外・自主活動奨学金制度(半期ごと)を設け、支援しています。

学生の自治組織である学友会については、2025 年度は、7月2日から7月7日まで七夕企画を実施し、学生一人ひとりが笹に願いを込めた短冊をつるし展示しました。また、夏祭り(7月9日)、ジュース配布(7月18日)ハロウィンイベント(11月16日)、大学祭(11月30日)のイベント行い、多くの学生が集い楽しみました。

学友会の活動については今年度をもって最後とし、1月に開催した学生大会で学友会の解散を決議しました。残余資金については、取り扱い要綱を作成し、本学院へ目的寄付を行い今後の学生の福利厚生及び在学生向けのイベント時の財源として活用することとなりました。

(5) 多様な学生のニーズへの対応

①神戸教育短期大学

・経済的な困窮度の高い学生について

経済的な困窮度の高い学生を対象として、支給奨学金を用意しています。2025 年度は本学支給奨学金(学業継続支援)が 3 名(25 万円)に、本学後援会奨学金が 7 名(10 万円)に支給されました。

・成績優秀者について

成績優秀者については本学支給奨学金(成績優秀者)が 3 名(10 万円)に支給されました。

・付属園に就職する学生について

本学の付属園に内定が決定した学生には本学付属園就職支援金(上限 20 万円)が用意されています。2025

年度は付属園に就職が決定した学生1名が申請し支給されました。

・離職者等再就職職業訓練事業による学生について

2018年度より離職者等再就職訓練事業(長期高度人材育成コース)の企画提案が採択されました。保育者養成校で、再就職を目指す者に保育士資格を取得させる訓練を行うものです。それぞれが卒業後は保育職を目指して取り組んでいます。

・社会人入学生について

1999年度入学試験から社会人選抜(旧 社会人特別入学試験)を導入し、社会人の受け入れを行っています。社会人選抜での入学者の支援として「社会人特別奨学金制度(支給額10万円)」があります。2025年度は1名が支給対象となりました。

(6)その他の主要事業

①神戸教育短期大学

・地域との共生

学友会活動の一環として2025年度も大学祭を開催しました。在学生を対象に飲食やゲームを楽しむ交流企画を実施しました。

また、学内ボランティア活動として5月と7月には「日曜あそびキャンパス」を企画し、うららKOBEと共催で地域の親子を対象としたイベントを開催しました。

さらに今年度は、「GO! SHARE」プロジェクトが始動し、神戸市との共同企画として、神戸市北区五社の里山エリアにおける野外遊びブースの企画・運営ならびにイベント開催に取り組みました。(12月7日)

地域ボランティアへの参加については、2025年度は学内における「ボランティア認証制度」の創設に伴い、学生の学内外のボランティア活動への関心が高まり、より積極的な参加が見られました。

2025年度の学外ボランティア活動では、学外からの多くの依頼を受けて、「ながたフェスティバル」での折り紙と遊びのブース出展(14名)や木育ブースでの遊びのサポート(22名)、防災イベントでのブース出展(11名)、ながたっこまつりでの遊びのブース出展(8名)の他、毎月実施の子ども食堂における遊びサポート(延べ12名)に参加しました。





また、ボランティアクラブ「エネルギー」による活動としては、2025 年 5 月に「長田フェスティバル」にてバルーンアートのブースを出展しました。

・「新生活準備プログラム」

学生が積極的な学生生活を送るために、新入生に新生活準備プログラムとして外部業者に委託して 2023 年度に「チームビルディング」講座を導入しました。入学前の3月末日に2日間設定して希望者を募り実施します。2025 年度も、在学生、入学生対象に 3 月 24 日・25 日それぞれ 9:20～17:30 の時間で行い、新入生 40 名と在学生 1 名が参加しました。講座では、参加者が急速に打ち解け、活気ある討論が行われ、入学後のクラス作りの一助となっています。

・韓国保育研修

2025 年度は韓国での保育研修を実施しました。神戸空港の国際線就航開始により利便性が向上し、より参加しやすい研修となりました。12 名の学生が参加し、保育施設の見学や園児との交流を行いました。また、韓国の文化や観光地に触れる機会にも恵まれ、充実した研修となりました。



②神戸教育短期大学付属八尾ソレイユ認定こども園

・年長児による樹木プレートづくりと園内樹木への設置活動

2025 年度は自然環境教育の取り組みとして、年長児を中心に「樹木プレートづくりと園内樹木への設置活動」を実施しました。本活動は、月 1 回実施している短期大学と園との保育内容検討会において紹介いただいた内容を参考に行ったものです。活動では、ニッセイ緑の財団より寄付いただいた「園の木のしおり」および「樹木プレート」を活用し、子どもたちが園庭の樹木に親しみを持ち、自然への関心を深められるよう取り組みました。まず、園庭にある樹木を観察し、木の名前や葉の形、季節による変化などについて学習を行いました。その後、

子どもたちは樹木プレートに木の名前や葉・木などの絵を思い思いに描き、丁寧に作成しました。完成したプレートは、子どもたち自身の手で園庭の樹木へ取り付けを行い、自然を身近に感じながら学ぶ機会となりました。



3. 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表の状況と経年比較

貸借対照表

2021年4月 1日 から

2026年3月31日 まで

(単位 千円)

科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
資産の部					
固定資産	1,226,722	1,305,801	1,567,529	1,529,295	1,503,957
有形固定資産	1,210,346	1,290,005	1,558,734	1,521,158	1,496,519
土地	223,576	223,576	223,576	223,576	223,576
建物	667,345	669,349	1,013,746	991,072	977,842
構築物	101,251	95,952	119,571	112,760	105,948
教育研究用機器備品	54,800	50,492	58,833	50,422	42,267
管理用機器備品	4,281	3,548	3,374	2,780	5,640
図書	137,204	138,370	139,634	140,548	141,246
建設仮勘定	21,889	108,718	0	0	0
特定資産	0	0	0	0	0
その他の固定資産	16,376	15,796	8,795	8,137	7,438
電話加入権	1,215	1,215	1,215	1,215	1,215
施設利用権	0	0	712	661	610
ソフトウェア	3,091	2,443	1,795	1,148	500
出資金	2,985	2,985	2,985	2,985	2,985
長期貸付金	2,430	2,430	0	0	0
差入保証金	6,655	6,723	2,088	2,128	2,128
流動資産	553,000	476,571	494,266	542,090	648,813
現金預金	507,498	424,723	458,300	480,111	585,690
未収入金	34,644	45,294	34,717	55,579	49,668
貯蔵品	0	3,036	0	0	0
短期貸付金	3,096	2,122	0	0	0
仮払金	129	33	163	3	3
立替金	589	0	0	0	11
前払金	5,894	400	0	5,445	6,371
預け金	1,150	963	1,086	952	7,070
資産の部合計	1,779,722	1,782,372	2,061,795	2,071,385	2,152,770
負債の部					
固定負債	866,503	808,342	753,910	690,370	598,475
長期借入金	595,840	563,344	530,848	498,352	465,856
退職給与引当金	270,225	244,560	222,624	192,018	132,619
長期未払金	0	0	0	0	0
受取保証金	438	438	438	0	0
流動負債	170,236	166,381	153,910	143,762	187,607
短期借入金	32,496	32,496	32,496	32,496	32,496
未払金	54,134	45,437	49,263	36,746	94,512
前受金	46,593	52,714	43,533	37,388	36,568
預り金	37,013	35,734	28,618	37,132	16,653
賞与引当金	0	0	0	0	7,378
負債の部合計	1,036,739	974,723	907,820	834,132	786,082
基本金	953,675	1,071,285	1,392,718	1,400,692	1,437,384
繰越収支差額	△ 210,692	△ 263,636	△ 238,743	△ 163,439	△ 70,696
純資産の部合計	742,983	807,649	1,153,975	1,237,253	1,366,688
負債及び純資産	1,779,722	1,782,372	2,061,795	2,071,385	2,152,770

②事業活動収支計算書の状況と経年比較

事業活動収支計算書

2021年4月 1日 から

2026年3月31日 まで

(単位 千円)

科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
学生生徒等納付金	382,178	365,575	367,622	335,096	326,086
手数料	938	1,286	1,871	1,463	2,419
寄付金	166	0	4	0	7,973
経常費等補助金	355,006	434,687	433,767	485,794	541,564
付随事業・収益事業収入	0	0	0	0	0
雑収入	42,614	41,552	30,379	38,578	51,973
教育活動収入計	780,902	843,100	833,643	860,931	930,015
人件費支出	399,531	398,003	423,579	434,398	473,224
教育研究経費支出	183,694	241,531	242,101	243,943	249,059
管理経費支出	124,854	140,042	108,017	96,472	105,499
徴収不能額等	8,540		3,406	0	0
教育活動支出計	716,619	779,576	777,103	774,813	827,782
教育活動収支差額	64,283	63,524	56,540	86,118	102,233
受取利息・配当金	27	15	14	118	412
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	27	15	14	118	412
借入金等利息	6,842	5,981	5,680	5,439	5,160
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	6,842	5,981	5,680	5,439	5,160
教育活動外収支差額	△ 6,815	△ 5,966	△ 5,666	△ 5,321	△ 4,748
経常収支差額	57,468	57,558	50,874	80,797	97,485
資産売却差額	0	0	0	0	0
その他の特別収入	5,517	7,109	303,048	3,768	32,413
特別収入計	5,517	7,109	303,048	3,768	32,413
資産処分差額	0	0	7,595	312	451
その他の特別支出	0	0	0	976	12
特別支出計	0	0	7,595	1,288	463
特別収支差額	5,517	7,109	295,453	2,480	31,950
予備費			0	0	0
基本金組入前当年度収支差額	62,985	64,667	346,327	83,277	129,435
基本金組入額合計	△ 320,188	△ 117,610	△ 321,434	△ 7,974	△ 36,691
当年度収支差額	△ 257,201	△ 52,943	24,893	75,303	92,744
前年度繰越収支差額	46,509	△ 210,692	△ 263,635	△ 238,742	△ 163,439
基本金取崩額		0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 210,692	△ 263,635	△ 238,742	△ 163,439	△ 70,695

(参考)

事業活動収入計	786,446	850,224	1,136,705	864,817	962,840
事業活動支出計	723,461	785,557	790,378	781,540	833,405

③資金収支計算書の状況と経年比較

資金収支計算書

2021年4月 1日 から

2026年3月31日 まで

(単位 千円)

科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
収入の部					
学生生徒等納付金収入	382,176	365,573	367,622	335,096	326,086
手数料収入	938	1,286	1,871	1,463	2,419
寄付金収入	166	0	4	0	7,973
補助金収入	360,523	441,795	735,662	485,794	543,864
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	0	0	0	0	0
受取利息・配当金収入	27	15	14	118	412
雑収入	10,689	7,347	9,726	13,091	11,067
借入金等収入	694,600	0	0	0	0
前受金収入	46,593	52,714	43,533	37,388	36,568
その他の収入	297,170	27,785	46,336	43,524	55,578
資金収入調整勘定	△ 95,401	△ 75,686	△ 87,431	△ 99,111	△ 87,056
前年度繰越支払資金	390,004	507,498	424,722	458,299	480,111
収入の部合計	2,087,485	1,328,327	1,542,059	1,275,662	1,377,022
科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
支出の部					
人件費支出	401,001	398,002	423,579	435,748	454,536
教育研究経費支出	155,574	211,451	195,192	196,999	203,877
管理経費支出	123,640	121,195	107,265	96,827	104,907
借入金等利息支出	6,842	5,981	5,680	5,439	5,160
借入金等返済支出	566,847	32,496	32,496	32,496	32,496
施設関係支出	65,926	120,255	312,392	4,994	14,960
設備関係支出	13,105	7,682	11,657	4,608	5,629
資産運用支出	0	0	0	0	0
その他の支出	302,576	57,474	44,762	55,186	53,488
資金支出調整勘定	△ 55,524	△ 50,931	△ 49,263	△ 36,746	△ 83,720
翌年度繰越支払資金	507,498	424,722	458,299	480,111	585,689
支出の部合計	2,087,485	1,328,327	1,542,059	1,275,662	1,377,022

④活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

活動区分資金収支計算書					
2021年4月1日から					
2026年3月31日まで					
(単位 千円)					
科目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	748,978	808,895	811,707	831,677	888,847
教育活動資金支出計	680,217	730,649	726,036	728,599	763,308
差引	68,761	78,246	85,671	103,078	125,539
調整勘定等	25,277	1,420	335	△ 44,623	42,134
教育活動資金収支差額	94,038	79,666	86,006	58,455	167,673
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	5,517	7,109	301,894	0	2,300
施設整備等活動資金支出計	79,032	127,938	324,049	9,602	20,589
差引	△ 73,515	△ 120,829	△ 22,155	△ 9,602	△ 18,289
調整勘定等	△ 118	△ 23	540	△ 346	3,584
施設整備等活動資金収支差額	△ 73,633	△ 120,852	△ 21,615	△ 9,948	△ 14,705
小計（教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額）	20,405	△ 41,186	64,391	48,507	152,968
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	698,142	818	7,745	12,694	674
その他の活動資金支出計	596,066	41,818	38,559	39,388	48,040
差引	102,076	△ 41,000	△ 30,814	△ 26,694	△ 47,366
調整勘定等	△ 4,986	△ 589	0	0	△ 24
その他の活動資金収支差額	97,090	△ 41,589	△ 30,814	△ 26,694	△ 47,390
支払資金の増減額（小計+その他の活動資金収支差額）	117,495	△ 82,775	33,577	21,813	105,578
前年度繰越支払資金	390,004	507,498	424,723	458,300	480,111
翌年度繰越支払資金	507,498	424,723	458,300	480,111	585,690

(3)財務比率の経年比較

財務分析表							
評価基準：(△)は値が高いほうがよい、(▼)は値が低いほうがよい、(-)はどちらともいえない。							
比率名		算出式	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
【貸借対照表比率】			(%単位)	(%単位)	(%単位)	(%単位)	(%単位)
1. 固定資産構成比率	固定資産／総資産	—	68.928	73.262	76.027	73.830	69.861
2. 有形固定資産構成比率	有形固定資産／総資産	▼	68.008	72.376	75.601	73.437	69.516
3. 特定資産構成比率	特定資産／総資産	△	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
4. 流動資産構成比率	流動資産／総資産	△	31.552	26.738	23.973	26.170	30.139
5. 固定負債構成比率	固定負債／(総負債＋純資産)	▼	48.688	45.352	36.566	33.329	27.800
6. 流動負債構成比率	流動負債／(総負債＋純資産)	▼	9.565	9.335	7.465	6.940	8.715
7. 内部留保資産比率	(運用資産－総負債)／総資産	△	-29.737	-30.858	-21.802	-17.091	-9.309
8. 運用資産余裕比率	(運用資産－外部負債)／経常支出	△	-24.185	-27.567	0.197	0.112	0.009
9. 純資産構成比率	純資産／(総負債＋純資産)	△	41.747	45.313	55.969	59.731	63.485
10. 繰越収支差額構成比率	繰越収支差額／(総負債＋純資産)	△	-11.838	-14.791	-11.579	-7.890	-3.284
11. 固定比率	固定資産／純資産	▼	165.108	161.679	135.837	123.604	110.044
12. 固定長期適合率	固定資産／(純資産＋固定負債)	△	76.218	80.805	82.161	79.336	76.531
13. 流動比率	流動資産／流動負債	△	329.859	286.433	321.139	377.076	345.838
14. 総負債比率	総負債／総資産	▼	58.253	54.687	44.031	40.269	36.515
15. 負債比率	総負債／純資産	▼	139.538	120.686	78.669	67.418	57.517
16. 前受金保有率	現金預金／前受金	△	1,089.213	805.710	1,052.756	1,284.141	1,601.666
17. 修正前受金保有率	運用資産／前受金	△	1,089.213	805.710	1,052.756	1,284.141	1,601.666
18. 退職給付と引当特定資産保有率	退職給付と引当特定資産／退職給付と引当金	△	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
19. 基本金比率	基本金／基本金要組入額	△	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
20. 減価償却比率	減価償却累計額／減価償却資産取得価額	—	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
21. 積立率	運用資産／要積立額	△	141.290	119.919	129.739	139.082	178.450
22. 現預金比率	現金預金／流動負債	△	298.114	255.271	297.771	333.963	312.192
23. 特定資産留保率	(特定資産＋長期有価証券)／総資産	△	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
27. 外部負債超過額対教育活動資金収支差額比率(年)	(外部負債－運用資産)／教育活動資金収支差額	▼	-	-	-	-	0.043
【事業活動収支比率】			(%単位)	(%単位)	(%単位)	(%単位)	(%単位)
1. 人件費比率	人件費／経常収入	▼	51.161	47.206	50.810	50.450	50.861
2. 人件費依存率	人件費／学生生徒等納付金	▼	104.541	108.871	115.222	129.634	145.122
3. 教育研究経費比率	教育研究経費／経常収入	△	23.522	28.647	29.041	28.331	26.768
4. 管理経費比率	管理経費／経常収入	▼	15.988	16.610	12.957	11.204	11.339
5. 借入金等利息比率	借入金等利息／経常収入	▼	0.876	0.710	0.681	0.632	0.555
6. 事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入	△	8.009	7.606	30.468	9.629	13.443
7. 基本金組入後収支比率	事業活動支出／(事業活動収入－基本金組入額)	▼	155.163	107.227	96.947	91.212	89.986
8. 学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金／経常収入	△	48.939	43.360	44.097	38.917	35.047
9. 寄付金比率	寄付金／事業活動収入	△	0.021	0.000	0.000	0.000	0.860
経常寄付金比率	教育活動収支の寄付金／経常収入	△	0.021	0.000	0.000	0.000	0.857
10. 補助金比率	補助金／事業活動収入	△	45.842	51.962	64.719	56.173	56.247
経常補助金比率	教育活動収支の補助金／経常収入	△	45.459	51.557	52.032	56.419	58.206
11. 基本金組入率	基本金組入額／事業活動収入	△	40.713	13.833	28.278	0.922	3.811
12. 減価償却額比率	減価償却額／経常支出	—	4.048	3.926	6.018	6.096	5.497
13. 経常収支差額比率	経常収支差額／経常収入	△	7.359	6.827	6.102	9.384	10.477
14. 教育活動収支差額比率	教育活動収支差額／教育活動収入	△	8.232	7.535	6.782	10.003	10.993
15. 人件費経常収入依存率	人件費／(納付金＋経常費補助金)	▼	54.197	49.734	52.856	52.918	54.541
16. 事業活動収支比率	事業活動支出／事業活動収入	▼	91.991	92.394	69.532	90.371	86.557
【活動区分資金収支比率】			(%単位)	(%単位)	(%単位)	(%単位)	(%単位)
1. 教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額／教育活動資金収入計	△	12.556	9.849	10.596	7.029	18.864

(2)その他

①資産運用の状況

資産運用の基本方針、運用対象、運用対象の制限、運用手続等については、「学校法人夙川学院資産運用規程」に規定しています。2025年度の資産運用実績は、金融機関での普通預金、定期預金、定期積金です。

②学校債の状況

該当はありません。

③寄付金の状況

神戸教育短期大学の学生自治組織である学友会が2026年1月に解散したため、残余財産全額7,972,951円が本学院に寄付されました。寄付金は学生のための活動や教育環境整備に活用していきます。

④主な補助金の内容、使用実績等

・神戸教育短期大学

私立大学経常費補助金:短期大学の教育活動や研究活動を維持するために使用:39,905千円

高等教育修学支援金:学生に交付し、学費(入学科・授業料)及び学生生活のために使用:45,984千円

神戸市地域子育て支援事業費:神戸市からの委託を受けた子育て支援広場の運営に使用:5,628千円

・認定こども園:

施設型給付費:園を日常的に運営するために使用:387,728千円

(処遇改善等加算費、チーム保育推進加算費等含む)

(3)経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

本学院は2019年度から保育者養成校である神戸教育短期大学と二つの幼保連携型認定こども園を設置校とし、保育・幼児教育に特化する方針を決定し、2019年度から2025年度まで7期連続で学院全体の経常収支差額は収入超過を達成しました。また、各設置校は独立採算制としていますが、すべての設置校で経常収支差額が収入超過を継続しています。

少子化が加速する中で、選ばれる短期大学、選ばれるこども園となるために、常に新しいことに取り組むこと、設置校が連携して特色ある教育・保育を实践すること、広報的視点を意識することという基本方針を教職員全員が共有している成果であると考えています。今後も中期計画を確実に履行することによって、本学院の教育活動のさらなる発展を実現し、使命を果たすことで社会へ貢献していきます。

4. 学校法人の適正を確保するための体制(内部統制システム)の整備及び運用状況の概要

(1)関係する決議の概要

2025年4月からの私立学校法の改正及び文部科学省令第21号の施行により、2025年3月28日開催の理事会にて、内部統制システム整備等に係る規程等を制定及び改正しました。内部統制システム整備の基本方針を制定し、その方針に基づいて理事会運営規程、評議員会運営規程、リスク管理基本規程、コンプライアンス推進規程、監事監査規程、内部公益通報規程等を制定または改正しました。

(2)体制整備及び運用状況の概要

理事の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制、その他学校法人の業務の適正を確保するために必要なものとして、理事会運営規程、常任理事会規程、評議員会運営規程、理事の職務及び決裁権限規程、文書管理規程、リスク管理基本規程、コンプライアンス推進規程、監事監査規程、内部公益通報規程、内部監査規程を理事会にて制定し、各規程に基づいて業務をおこなっています。

* 本事業報告書には、附属明細書にて内容を補足する重要な事項はありません。